

# 令和6(2024)年度看護学部 卒業時アンケート調査集計結果

I R 委員会

I R 課

## I. 看護学部卒業時アンケート調査の概要

### 1. 目的

- 1) 学生自身が看護学部における学びを振り返り、看護学部の教育、支援及び自己の成長について評価する。
- 2) 1) の結果に基づき、看護学部の継続的な教育改善に役立てる。

### 2. 実施

- 1) 対象：東京純心大学看護学部 令和6(2024)年度卒業生 59 名
- 2) 時期：令和7(2025)年2月20日
- 3) 配付・回収方法：令和6(2024)年2月20日の看護師国家試験自己採点・連絡の中にて配付、その場で回答
- 4) 回収状況：37 名（回収率 63%）

### 3. 質問項目

- 1) DP（「ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針」）の習得状況に関する自己評価
- 2) 看護学部の教育（講義・演習・実習）改善の必要性について
- 3) 看護学部の支援について
- 4) 学生の成長について
- 5) 看護学部の教育に対する満足の程度について

## II 調査結果

### 1. DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の自己評価について

			① ない	② 身についていない	③ どちらでもない	④ ある程度身についている	⑤ 身についている
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	人間の尊厳と権利を擁護する力	0 ( 0%)	1 ( 3%)	6 (16%)	15 (41%)	15 (41%)
		人間関係形成力	0 ( 0%)	1 ( 3%)	7 (19%)	14 (38%)	15 (41%)
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	臨床判断力	0 ( 0%)	1 ( 3%)	5 (14%)	18 (49%)	13 (35%)
		科学的看護実践力	0 ( 0%)	2 ( 5%)	5 (14%)	17 (46%)	13 (35%)
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	対象ニーズに基づく看護実践力	0 ( 0%)	1 ( 3%)	3 ( 8%)	18 (49%)	15 (41%)
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	看護専門職として自律する力	0 ( 0%)	4 (11%)	4 (11%)	15 (41%)	14 (38%)
		多職種連携・協働力	0 ( 0%)	1 ( 3%)	7 (19%)	12 (32%)	17 (46%)

DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	課題発見力	0 ( 0%)	0 ( 0%)	6 (16%)	18 (49%)	13 (35%)
		課題解決力	0 ( 0%)	0 ( 0%)	7 (19%)	16 (43%)	14 (38%)
		看護創造力	0 ( 0%)	1 ( 3%)	6 (16%)	16 (43%)	14 (38%)
		継続的に学ぶ力	0 ( 0%)	0 ( 0%)	6 (17%)	14 (39%)	16 (44%)

☞ 「⑤身についている」、「④ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「対象ニーズに基づく看護実践力」において 90%弱と高い習得状況を示している。また、「人間の尊厳と権利を擁護する力」、「人間関係形成力」、「臨床判断力」、「科学的看護実践力」、「課題発見力」、「課題解決力」、「看護創造力」、「継続的に学ぶ力」において、80%を超える高い習得状況を示している。

#### DP達成状況

		①身についていない	②あまり身についていない	③どちらともいえない	④ある程度身についている	⑤身についている
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	0 ( 0%)	2 ( 3%)	13 (18%)	29 (39%)	30 (41%)
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	0 ( 0%)	3 ( 4%)	10 (14%)	35 (47%)	26 (35%)
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	0 ( 0%)	1 ( 3%)	3 ( 8%)	18 (49%)	15 (41%)
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	0 ( 0%)	5 ( 7%)	11 (15%)	27 (36%)	31 (42%)
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	0 ( 0%)	1 ( 1%)	25 (17%)	64 (44%)	57 (39%)

☞ 「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「DP1」が 80%、「DP2」が 82%、「DP3」が 89%、「DP4」が 78%、「DP5」が 82%と、いずれも高い。

#### 【参考】ディプロマ・ポリシー達成状況（自己評価）とディプロマ・ポリシーに関わる学修評価

		自己評価 Lv. 0-4	学修評価 Lv. 1-4
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	3.18	2.68
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	3.14	2.17
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	3.27	2.46
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	3.14	3.24
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	3.20	2.65

\*自己評価は「⑤身についている」を4点、「④ある程度身についている」を3点、「③どちらともいえない」を2点、「②あまり身についていない」を1点、「①身についていない」を0点として換算  
学修評価は、各ディプロマ・ポリシーを達成する必修科目の評価G Pの平均

## 2. 看護学部教育（講義・演習・実習）改善の必要性について

		①改善の必要がある	②どちらともいえない	③改善の必要はない
1)	4年間の講義について	4(11%)	29(78%)	4(11%)
2)	4年間の演習について	4(11%)	20(54%)	13(35%)
3)	4年間の実習について	4(11%)	23(62%)	10(27%)

⇒看護学部教育に関する改善の必要性について、「①改善の必要がある」と回答した割合は「講義」、「演習」、「実習」とともに11%となっている。「講義」は「②どちらでもない」と回答した割合が78%とやや高くなっている。

## 3. 看護学部の支援

		①全く充実していない	②充実していなかった	③どちらともいえない	④充実していた	⑤とても充実していた
(1)	アドバイザーによるサポート・相談について	2 (5%)	2 (5%)	13 (35%)	10 (27%)	10 (27%)
(2)	進路・就職に対するサポート・相談について	0 (0%)	1 (3%)	13 (35%)	10 (27%)	13 (35%)
(3)	国家試験対策に対する支援について	1 (3%)	3 (8%)	14 (38%)	13 (35%)	6 (16%)

⇒「⑤とても充実していた」、「④充実していた」と回答したものを合わせると、「(1) アドバイザーによるサポート・相談」が54%、「(2) 進路・就職に対するサポート・相談」が62%、「国家試験対策に対する支援」が51%となっている。

## 4. 本学での学びや体験を通して、入学時と比べた成長の程度

	①全く成長しなかった	②成長しなかった	③どちらともいえない	④成長した	⑤大いに成長した
本学での学びや体験を通して、入学時と比べてどの程度成長したか。	0 (0%)	1 (3%)	6 (16%)	18 (49%)	12 (32%)

⇒「⑤大いに成長した」、「④成長した」と回答したものを合わせると81%と高い割合になっている。

## 5. 看護学部教育に対する満足程度

	①全く満足していない	②満足していない	③どちらともいえない	④満足している	⑤大いに満足している
看護学部教育に満足しているか。	0 (0%)	2 (5%)	12 (32%)	15 (41%)	8 (22%)

⇒「⑤とても満足している」、「④満足している」と回答したものを合わせると63%となっている。